

## 「対話と実行」座談会（H21.2.14(土) 高知市鏡・土佐山地区）の概要

### 知事あいさつ

高知県の財政（平成20年度）のパンフレット、「学ぶ力を育み心に寄りそう緊急プラン」及び「産業振興計画 中間取りまとめ」（以下のURL参照）を基に説明。

(<http://www.pref.kochi.jp/~zaisei/joukyou/pamphlet/H20zaisei.pdf>)

<http://www.kochinet.ed.jp/kinnyuupurangaiyou.pdf>

<http://www.pref.kochi.jp/~seisui/keikaku/cstori.pdf>)

### 座談会

#### 【経済的な子育て支援策】

Aさん：私は高校卒業後、現在まで家業である農業に従事していて、身近に感じたことを述べさせていただきます。現在、農業の傍ら、街路市、日曜市に出店し、また、地元鏡村直販店にも出品している。現在では、いろいろな地域で直販店などができて、地産地消という意味では、成果が上がっているのではないかと考えている。しかしながら、高齢化、後継者不足によって人口が減少し、将来どうなるのだろうかと感じている。特に、鏡村のような中山間地域では、地域がさびれて、せっかく育った若者も県外に就職していくというのが現状ではないかと考えている。とにかく、子どもがいなければ話にならないということで、この前、全国最年少で当選された市長さんが、小学校6年生までの医療費無料化を公約にされていたそうである。今、不況の中、高知県の財政も厳しいと思うが、そういった経済面を含めた子育て支援について具体的な策があれば教えていただきたい。

知事：小学校6年生まで医療費を無料化というのは、財政的にも厳しくてなかなかできない。また、高知市において、非常に財政状況も厳しいということもある。ただし、乳幼児の第3子、就学前までの間は医療費を原則無料化するということをやっている。これは、やり始めると莫大なお金がかかるようになるので大変であるが、結婚しない理由、子どもをお持ちにならない理由として、経済的な理由が非常に大きいということがある。また、結婚しない理由について、出会いのきっかけがないということがものすごく多い。いい人に出会う、出会わないという以前の問題で、そもそも同年代の人との出会いが全くないということのようである。高知県は人口が少ないので、もう少し出会いのきっかけをつくっていく事業などもやらなれないといけないのではないかなと考えている。田野町でもそういう出会いの事業をやられたそうで、カップルが生まれたそうである。今後、高知市で、出会いの場をつくっていくような事業をやることで、結婚などに進めていただければなと考えていて、そういうソフトの支援を今後していきたいと思っている。もう一つ、特にお母さんが、妊娠されてから出産直後くらいのおきに、非常に悩まれる傾向がみられる。なので、妊娠後の健診の回数をもっと増やすということもあるが、出産直後に、心のケアをしていくような体制、親育ち支援というが、こちらでももう少し拡充していきたいということで、今計画をしている。21年度から実施する話であるが、こういう対応も図るということである。

【地域のリーダーの育成、コミュニケーションの促進、四国ブロック研究大会への知事の参加等】  
Bさん：PTA活動を通しての意見、また、地元の中山間に住んでいることを併せて、思い、知事へのお願いなど3点を準備してきたので、よろしくお願ひしたいと思う。

1点目に、地域にリーダーシップをとれる人材を育ててほしい。先ほど知事が言われたとおり、高知の現状と課題は大変厳しいものになっている。また、併せて、高知の子どもたちの知、体と、また徳についても中絶率が非常に高いということで、全国最下位レベルになっている。私たちの所属している県P、市Pも、この状況を何とか改善していきたいと、県教委、市教委とともに活動をしているが、私たちや行政が動いても、各家庭の保護者や子どもたち1人1人が現状を把握して動いてくれなくては何の意味もないと思う。その1人1人に私たちの思いを伝えるためにも、学校、地域、できれば各家庭に活動してくれる人が1人いてくれるだけで、その結果は大きく変わってくると思う。しかし、現状では、学校も保護者も地域も子どもたちも大変忙しくて、その活動を積極的にやってくれる人材が不足している。しかし、チャンスがあれば、リーダーとなってくれる人は必ずいると思う。全体に投げかける研修会もいいとは思いますが、ちょっと肩を押してあげれば活動をしてくれるような人材が必ずいるので、そういう人を見つけだし、支援をし、育ててほしいと思う。高齢者が多い中でも、もし地域にリーダーシップをとってくれる若者がいれば、高齢者はまだまだ力はあるので、絶対協力してくれる。そういう人材を見つけ出し、教育費などの必要な経費は無利子で貸し出すなどの方法をとって、リーダーとなれるような人材を育てていただきたいと思う。将来の高知のための大きな財産づくりになると思う。

2点目は、コミュニケーションをとっていただきたいということである。私自身、行政のいろいろな会に出たが、縦系統には情報が伝わり、情報交換ができてい一方、横のつながりが取れていないように思う。会をやっても、ただ結果の報告だけで終わってしまうことが多い。情報の水平展開、またそれぞれの人たちの横のコミュニケーションを取っていただきたいと思う。私たちに課せられた課題は、コミュニケーションをいかにうまくとるかだと思ふ。親と子、親と親、親と学校・地域、これら間のコミュニケーションがうまくとれていければ、今の高知県が抱えている教育の課題の大半はなくなるのではないかと思ふ。

3点目に、本年の10月18日に、四国ブロックPTA研究大会が高知で行われる。今、実行委員会を立ち上げて準備に取り掛かっている。当日、知事に参加していただいて、参加者に祝辞をお願いしたいのと、また、一会員として、大会の運営にも携わっていただければありがたいと思ふ。それと、大会への参加者の人数確保が大変難しくなっている。そこで是非知事をお願いしたいのが、「龍馬伝」の関係で、主役の福山雅治さんに会う機会があるのではないかと思ふので、是非、会ったときには、大会の参加者へのメッセージをいただくか、あるいは参加していただけたら本当にうれしい。

知事：最後のお話、私はお伺いさせていただくが、福山さんについては、お忙しい方でもあり、お話は何かつないでみたいという回答しかできないので、お許しいただきたい。

最初の、地域にリーダーシップをとれる人材を育てるというお話は、おっしゃるとおりだろうと思ふ。そういうことのきっかけづくりということで、我々も地域に地域支援企画員を派遣させていただいている。残念ながら、こちらの地区には常駐はしていないのでそこは申し訳な

いが、多くの地域ではそういうことで仕事をさせていただいている。地域にリーダーシップをとれる人材をどう育てていくのかというのは、逆に言うと、それがあ意味うまくいけば、事は成ったようなものなのかもしれない。そういう人材を育てる場としても、また、その次のコミュニケーションをとるといってお話とも非常に関係していると思うが、親と子と地域の横のコミュニケーションがしっかり図れる場が必要なのだというお話があった。先ほど申し上げた学びの場、放課後に、子どもたち1人1人をケアしていくような場を、今後、県内全小学校での設置を目指して数を増やしていく予定である。鏡地区でも、小学校の方でお断りにならなければ作る方向で進めていくはずである。その場に、いろいろな地域の皆さんが来ていただいて、さらに、親御さんたちもそういう場にも入っていただいて、学校とともに放課後の子どもたちを支えていく場になるはずである。是非こういう場なども活用していただいて、横のコミュニケーションがとれるようにしていきたいと思う。また、そういう活動などを通じて、地域のリーダーシップをとれるような人材ができればいいかなと思う。地域リーダーシップ人材養成塾みたいなものをつくるという発想もあるかもしれないが、実際には、地域のリーダーは、塾に行つて育つようなものではないと思う。日ごろの人間関係、日ごろの地道な活動、それによって信望を得ていくということから生まれてくるのだらうと思うので、特に教育関係でいけば、放課後の学びの場を是非うまく使っていただきたいと思う。

【去坂地区の道路の改良、中山間地域等直接支払制度の継続、鏡ダムの管理、県内に就職の場を】

Cさん：私は鏡の去坂（さるさか）地区に住んでいて、ショウガを主に栽培している。そのほか、ハクサイ、トウモロコシなどを量販店や直販店に出荷して営んでいる。量販店の方では鏡産直グループとしてコーナーを設けていただいている。また、生産者と量販店さんとの話し合いの場として、月に1回は交流を深めるようにし、生産の出荷が継続できるように努力している。こういった日常生活の中で、今日のこの機会にお願いしたいことがある。1点目は、10数年前から要望していた、去坂地区の主要道路の拡張が今年度から叶うということで、地区の者全員が喜んでいて、ところが、予算の関係で、測量していた箇所ほんの一部ということになり、大変残念な結果となっている。場所は、去坂本線で、今年から工事を始めて先日終わったところである。測量で700mくらいの区間をやるようになっている。一番の本線であり、山間地域の者は主要道路が整備されていないと、車での交通手段しかないので、引き続いて予算の確保をお願いしたいと思う。

2点目は、中山間地域等直接支払制度の継続のお願いである。条件不利地の山間地域においては、この制度を活用して、活発な集落活動に取り組んでいる。例えば、地区の環境整備において、高齢化が進み、地区の者だけでは広範囲な整備は重労働になっている。そこで、協力員を募ったり、作業機械を購入したりと幅広く活用させていただいている。また、若者と高齢者との交流の場、情報交換の場としても役立っているため、是非この制度の継続をお願いしたい。

3点目は鏡ダムの管理についてであるが、鏡川で捕れたアユの評判がよくないとの話を夏場に聞いた。直販店での話であるが、アユのはらわたの味が悪いと言われたようである。夏場の湧水時期などの水が動かないときに、淀んだ水が鏡ダムから放流されているとのことで、ほかのダムで見受けられる浅層曝気装置、水温差を緩和するための装置を設置してみてもどうだろうか。ダムの水は、表層の水は温かく、底に行くほど冷たくなる。ダムの温度の低い水を下流

に流してしまうと、稲が育たなかったり、魚に悪い影響があると聞く。鏡地域のシンボルともいえる施設であり、平成の水100選に鏡川の水が選ばれたということもあるので、是非検討をしていただけたらと思う。

最後に、雇用に関する問題で、私にも、成人と17歳の子どもがいる。高知で就職したくても、県外での就職しかなかったという話をよく聞くようになった。将来的に高知で就職できる場がたくさんになることを願っている。

知事：道路の話については市の道路のようであるので、市の方からお答えをお願いしたい。

**高知市企画調整課長：市道のものであるので、場所の確認をさせていただくが、予算は非常に厳しい状況である。少しずつしかできないが、進めていくことになると思う。**

知事：中山間地域等直接支払制度については、来年は確実に維持する。22年度以降にどうなるかについては、国の制度の問題であるので、当然維持するべきということで、強く要望を続けていきたいと思う。おそらく、多くの県が同様の考えを持っていると思う。

3点目の鏡ダムの管理の問題について、ダムの管理全体の問題はなかなか難しい問題であるので、そんなに簡単にはできないと思うが、今いただいた話についてどういうことが考えられるか、検討させていただきたいと思う。

4点目の若い人が高知で就職できる場を、その仕組みづくりということについて、これは本当に難しい問題である。それがゆえに、産業振興計画づくりなどを今行っているところである。今、全国でも、このようなミスマッチが起こっているのだらうと思っている。例えば、介護や福祉の分野では、引き続き高知県でも人手が足りないが、なかなか就職される人がいない。そして、1次産業、高知県ではリーディング産業、高知県を引っ張っていただいている産業であるが、こちらも担い手がなかなかいない。その理由としては、介護や福祉の現場が非常にきつい割には、給料がなかなか上がらないという問題があるから、そして、1次産業でも、若い人が生活していけるだけの所得が上がるのかという問題があるからだと思う。1次産業に従事される方が、先々に向かって、所得を得て暮らしていけるようにできないか、これが本当の望みである。産業振興計画をつくっているが、今まで県の計画は、いかにして生産を拡大するかといった話がほとんどであった。しかし、それでは、所得を得ることにはつながらない。いかに高く売っていくかという計画づくりをしなければならない。今回の計画で、地産外商、販路拡大、さらには、加工して付加価値を付けて売っていくといった話をしているのも、究極的には、1次産業の現場にもっとお金が落ちていくようにできないかということがあるからである。そういう取り組みをしていくうちに、間接効果で他の産業の皆さんも、もっと残れるようにならないかということがある。次に、若い人の職場づくりとして、企業誘致をもっと進めるべきではないかというお話をいただくことがある。もちろん努力はするが、そんなに簡単に企業誘致はうまくいかない。わざわざこの遠い遠い高知まで来てくれる会社は、そんなにないというのが現実だと思う。三重県がシャープの工場を、子会社もあわせて一括で誘致したが、大きなコンビナートがあって、港があって、新幹線もすぐそばを通っていて、高速道路が整備されていてという条件でやっと来てくれるわけである。高知県ではなかなか難しいところ

があると思うので、高知タイプの企業誘致の作戦を練って、雇用の場を確保しようとしているところである。すなわち、物を作るときには、1番目、2番目、3番目の工程というふうに、何段階も工程が続いていく。例えば、高知に1番目と3番目の工程はあるが、2番目の工程の工場がないような場合に、2番目の工程をしてくれる工場を誘致していく。これは比較的条件が整っているので、うまくいきやすいのではないかなと思っている。また、新しいサービスであるコールセンターなどの企業誘致ができないか。去年はそれでヤフーさんが来てくれた。小規模でも、数を積み重ねていくことで、雇用の場を確保していくようにしたいと思っている。また、先ほど申し上げたとおり、あったかふれあいセンターを10か所つくることとしているが、この場にも職員が必要になってくるので、こういう場も、雇用の場として使っていただけないかと思っている。とにかく、ありとあらゆることをやって、職の場をつくっていくということに努力をしたいと思う。

#### 【材価についての温度差、建築基準法の改正】

Dさん：木材の製材、販売などを行っているDといいます。ここ最近は、自然派志向の流行などもあって、木材の需要は結構はあると思うが、需要がある割には、木材の製品の単価が全く上がってこない。それが上がってこない、丸太の値段も上がらない。それで、需要はあるが、単価が低いために山から木が出てこない、山師の人が山から木を出してきても結局見合う金額ではないので、そういった現状があって、丸太の市場が開かれる回数も少なくなっている。単価が上がらない原因はいろいろあると思うが、高知県内でも、民間で木材をやっているところと、民間じゃないところでやっているところがあって、そこに温度差がかなりあると思う。例えば、民間だったら、最低これくらいのラインがないと利益が上がらないというところを、民間でない組織では簡単に安く出してしまう。そうすると、結局それが相場になってしまう。

知事：民間でやっていないところとはどういうところですか。

Dさん：例えば、森林組合さんの延長だったり、純民間でやっていないところである。その辺の温度差をもう少し埋めていただければ助かると思う。

次に、今年の10月に建築基準法が改正されると思う。私もまだ勉強中であまり詳しくないが、いろいろな業者さんと話をする中で、あまりにも仕事がやりにくくなるような内容のことが多いような気がしている。例えば、無駄にお金がかかるようなやり方をしないといけなかったり、小さな工務店や個人の大工さんなどでは、家がすごく建てにくくなる法律の内容になるのではないかと思っている。10月になってみないと分からないことが多いが、仕事が極力やりやすいような方向に向けていただければ助かる。

知事：どこが懸念されるという、具体的な点はありますか。

Dさん：今出ている話の内容では、製材の話で言えば、構造材1本1本に強度を示す機械を導入しないと、施工者側の工務店などが保険に入れないような仕組みになってくるなどという、無駄ということはないが、そこまでやるのかというような内容のものが多分たくさんあると思う。

知事：前回の建築基準法の改正のときには、インパクトの大きさを実感したところなので、今回  
どういう影響があるかについて、勉強させていただきたいと思う。

木材の単価が上がらない問題については、そもそも輸入材との戦いということもあるので、  
厳しいと思う。全然材質は違うのであろうが、輸入材を使うところもあって、それに引きずら  
れて値が低くなっているということもあろうので、厳しいのだろうと思う。材価が上がらない  
という話は、私も県内いろいろなところで聞く。ただ、需要があると聞いたのは初めてで、そ  
うであれば本当に素晴らしいことであると思う。最終需要をどうしても上げていかないとけ  
ない。製材所での需要を上げるだけではなくて、実際に生活の中で使っていただく。なので、  
公共施設でももっと使うようにしたり、県産材の木造住宅にも補助金を出すという取り組みを  
している。また、嶺北地域では、「れいほくスケルトン」といって、キット化することで、需要  
喚起に努めておられる。基本は需要の喚起を図っていくことで、それが最終的には値を上げて  
いくということになるのだと思う。なので、とにかく、もっと需要を上げていくことに  
意を用いていただくということだと思う。そのほかにも、山側のコストダウンとして、森の工  
場づくりとして、大型機械の導入や、緊急対策として作業道を抜いていく取り組みをしようと  
思っている。そして、集材所についても対応して、都心などにおいても、もう少し集約化して、  
より効率的に運送と分散ができるようにならないかとか、また、大型の製材工場の誘致ができ  
ないかとか考えている。林業は本当に大変で、産業振興計画にもいろいろなことを盛り込んで  
いるが、生産現場から最終需要まで、ありとあらゆることを試していくのだと思っている。

#### 【子どもの学力・体力の現状についての分析、保護者に対する情報発信】

Eさん：主に鏡地区の子どもたちのことについてスタッフとしてやっている。また、高知市鏡文  
化ステーションR I Oの指定管理をしているボランティアの団体の手伝いをしていて、このR  
I Oがあと何年かしたら地域のいい拠点になるのではないかと信じている。何年か経ったら、  
こちらの方で座談会に呼んでほしいなと思う。今日は中学生と小学生の子どもを持つ親として、  
教育について話をさせていただきたいと思う。

まず、最初に子どもたちの通学路となっている県道の改良をしていただきありがとうございました。  
県の方にお礼を言う場がないので、ここで言わせていただく。子どもたちも、僕らの  
道をきれいにしてくれたんだと喜んでいるし、ドライバーもすごく運転しやすくなったのか、  
子どもに配慮して走ってくれる車が多くなった。

体力と学力が全国最下位クラスになってしまったのはどうしてか。現在プランがあるからに  
は、どうしてかという分析をされた上のことだと思う。それを、保護者の私たちに分かるよう  
に説明していただきたい。知事さんが先ほどからおっしゃっている施策について、今日お聞き  
してすごく信頼できる。このペーパーについて行くという気持ちである。なので、どうしてこ  
ういうことになったかについて、保護者として知りたい。また、高知市では、家に帰って勉強  
しない子が多いとおっしゃった。4、5分で終わるような宿題しか出さなくて、家庭での学習  
が身につくのか。学校でどんな内容の宿題が出ているか、どれくらいの時間で子どもたちがこ  
なしているか、その後、先生がどれくらいフォローしているのか私も調べた。小学校の先生を  
批判するつもりは一切ないが、宿題の内容を見てみると、その辺の本屋で売っているような問

題集をプリントアウトして宿題にしている。もうちょっとちゃんとした宿題を出してほしい。はっきり言って情けない。順位が46位、47位というのは子どもの問題ではないと思う。今日子どもに何を話すかと聞かれたので、学力の問題を知事さんに聞いてくると言ったら、「私たちは私たちが頑張っているんだよ」と、その言葉に私はたまらなかった。

知事：私は一度たりとも子どものせいだなんて言ったことはない。それは全く違う。私が何度も言っているのは、子どもがかわいそうだということである。大人がしっかりしないといけなさと申し上げている。何で、今までうまくいかなかったか。土佐の教育改革を10年やってきたが、端的に言って、掛け声だけで現場が変わっていなかったからということに尽きる。宿題の話をおっしゃったが、今、小学校で宿題をやってこなくて怒られる子どもがどれだけいるか。中学校で果たしてどれだけ宿題を出しているか。そういう問題からすべては始まるのだと思う。子どもたちの自ら学ぶ力を育てようという掛け声は作った。あとは子どもが主役ですとやってきた。そういう精神論だからだめだったと私は思っている。先ほど凡事徹底と申し上げたが、1個1個、単元ごとに宿題を出して、単元テストを行って、できていない子には補習をしていく、こういう学校現場で一つ一つ具体的な動作につながっていくような詰めが必要である。それをやっていなかったからいつまで経っても変わらない。だから、今回、それをやろうとしている。正直なところ地域差もあるので、もう一段踏み込んだ対応をしなければならないところもあると思っている。実際、中学校では、中学校の勉強だけ教えていけばいいという状況ではなくて、九九から教え直さないといけない子どももっている。小学校は全国平均並と言われていたが、難しい課題になると、如実に悪くなる。決してそんなに楽観できる状況ではない。現場の先生方にも大いに危機感を持ってもらわなければならない。過去の問題としてもう一つ、高知県教育委員会と高知市教育委員会が手を携えて仕事をするということはなかなかなかった。亡くなられた（高知市）前教育長さんが最後の道筋を引いてくださったが、それを受けて、県教委と市教委で連携してタイアップして、仕事をしていこうとしている。例えば、先ほどの放課後の対策についても、緊急事態であるが高知市の財政状況が厳しいということなので、高知県教育委員会から、予算を相当程度出すということまでして、人を雇っていく対応などもしていこうとしている。何も分析しないで言っているわけがない。私も子どもたちのことを、そんなに悪い悪いなんて言いたくないが、まず危機感を持つことが大切だということで、徹底して今、話をあちこちで申し上げている。この間、高知県教育長も、高知市の中学校の先生方と血判状を押ししたそうである。とにかく一生懸命やるぞと。今回こそは学力向上を成し遂げないと大変な事態だということで話をしたということである。先ほど申し上げたように、学校と放課後が具体的に変わらなければならない。具体的な対応をコツコツと積み上げていくことだと思っている。また、体力テストにも一つ如実な傾向がある。ボール投げとかはそんなに悪くない。長距離で走るようなものが良くない。最後まで一生懸命やり抜くという習慣がついているのかということである。問題についても、1ランク難しくなると、途端に空白率が高くなるという傾向もある。国語で筆記の形式で答えを書く問題、例えば、下線が引いてある部分の理由は何か、文章で書きなさいという問題になると、全国の中でも極端に空白率が高い。この辺りから類推されることは、難しいこと、困難なこと、大変なこと、これに一步踏み込んで努力をしようという姿勢を十分教え切れているのだろうかということだと思う。最後まで一生懸命走り抜

こうとしない子どもに、一生懸命最後まで走らんかということ教えるのが教育ではないかと思う。「土佐の教育改革」を10年やって変わらなかったことを変えるということは、そんなに簡単なことではない。しかしながら、やらなければならないことは、当たり前のことをきちんと現場で徹底していくということだと思っている。結果の分析は、私が就任してから1月から3月まで教育委員会と徹底して勉強して、やっているつもりである。今、教育行政は大きく変わってきているということを見ていただいて、それを頭ごなしに全否定するようなことではなくて、是非バックアップするという形でやっていただければと思う。少しでも前向きにやろうとしているのを、褒めてやってもいただいたりしながら、また、叱ってやってもいただいたりしながら、全体として、教育の振興を図っていける方向にもっていければなと思う。地域の皆様の協力も、そういうところに非常に大きいところがあるのではないかと思う。

Eさん：もう1点、知事さんのお考えや、教育委員会さんのお考えなどを、私は初めてここで聞いた。全保護者に対しても何らかの情報発信をしてほしい。親もどうにかしないといけないと思って困っているので、分かりやすく説明していただきたい。

知事：高知県は、今までほとんど広報をやってきていなかったもので、政策PRなどをしっかりやっていく体制、テレビやラジオなどを使うことをもっと増やしていくように努力したいと思っている。ただ、私は、何度もPTAの会長さんやPTA会などに行って話をさせていただいている。この話は徹底して何度もお話をさせていただいているが、 $3 \times (-4) = -12$ ができない子どもが4割いるという話をさせていただくと、「へー」と声が出る。伝わっていないということをつくづく思うので、もっと頑張りたいと思う。

～休憩～

#### 【地域の活動の発表の場、地域について学ぶ教育】

Fさん：土佐山中切のFと申します。今日は私たちの地域の話をしていただきたいと思う。私たちの地域には、中切、東川、久万川という3つの集落があって、総称して中川地区と呼んでいる。中川地区は今、1年で一番忙しい時期を迎えていて、今日から1か月間、3月15日まで、嫁石地区で梅祭りを開催する。とてもきれいな梅園であるので、自慢の梅を見に、知事さんも皆さんも是非お越しになっていただきたい。この梅祭りは、今から20数年前、地域がどんどん寂しくなっていくことに、地区の住民たちが危機感を覚えた時期があった。そういったことから、地域づくりを考え始めたころに、梅園の持ち主が、地域おこしの先駆けである大分県大山町（現・日田市）に研修に行かれたことから始まったと聞いている。家の周りの田んぼや畑だった土地に、梅の苗木を1本1本植えていったと聞いている。この梅祭りをきっかけに中川地区のオーベルジュ土佐山を核とした地域づくりが行われていった。中心になったのは、地区の住民で結成される中川をよくする会で、この会は老若男女誰でも参加できるボランティア団体である。私たちは暮らしを通して様々な地域づくりに参加させていただいている。参加することで、地域への関心も高まり、地域を大切に思う気持ちも生まれてくるのではないかと思う。しかし、地域づくりを始めて20数年も経つと、疲れもあるのか、段々低迷してきて、活



動に活気がなくなってきている。そこで、お願いがあるが、地域を元気にする取り組みをお願いしたいと思う。今、県内でどのような活動が行われていて、県や市がどのような方針で取り組まれているかとか、いろいろな地域で活動を行っている団体や企業がどういう取り組みをされているかとか、そういう話を聞く機会を1度持っていただきたいと思う。同じことはできなくても、ヒントやいろいろなやり方を学ぶことができると思うし、交流の場としても有意義な時間を持つと思う。県レベルでのそういう発表の場を作っていただくことで、地域の活性化につながると思うし、頑張っている個人や団体に知事さんから賞などいただけたら、活動の励みにもなると思う。

また、できれば、学校教育にこういう地域のことを学ぶ時間も加えてほしいと思う。地域と学校が共に進むことで、大人たちの活動を見た子どもたちが地域への関心を持ち、行動を起こす、世代がかわっても、地域への関心や大切に思う心がずっと続いていくような、そんな学校教育が実現できればと思う。

知事：地域を元気にしようとして頑張っている皆様方の交流する場を設けたらどうかというのは、確かにそのとおりだと思うので、考えてみたいと思う。先ほど、産業振興計画のお話を申し上げたが、資料の4枚目の真ん中に「高知県産業振興計画」とあって、左側に産業成長戦略、右側に地域アクションプランと書いてあると思う。これは、県内を7つのブロックに分けて、それぞれのブロックごとに、地域地域のいろいろな取り組みを、実際に雇用・所得を生む取り組みにするため、アクションプランをつくっていただいている。高知県には、いろいろなところでいろいろなアイデアを出しておられる方が非常に多いと思う。特にお酒の場などでたくさんアイデアが出ると思うが、翌日の朝になると消えてなくなってしまうということがあるのではないかと。逆の言い方をすれば、高知ではたくさんアイデアが沸くが、それがなかなか形にならない。これは、人の数が少ない、資本の蓄積が少ないので、それにお金を出してやろうという人が少ないといったようなやむを得ない面もあると思う。ただ、アイデアが出ている分、もったいないという思いがあって、この地域のアイデアを素材やいろいろな活動と組み合わせ、当初だけであるが資金の面でもバックアップしていく形で、具体的に雇用や所得を生む仕組みづくりができないか、地域のいろいろなアイデアを何とか形にしていくことで、地域の活性化、経済全体の活性化につなげていきたいということで、今回、あえてこの地域アクションプランというものを産業振興計画の中に設けた。現在、221の施策が地域アクションプランに盛り込まれていて、土佐山・鏡地区においても、いくつか盛り込まれているという状況である。例えばユズを使った振興であるとか、そういう取り組みも盛り込まれていると伺っている。今、この地域アクションプランに載っていないとしても、このアクションプランは、毎年度改訂する。こういう計画は、1回策定するとずっと変えないということが多いが、経済状況の変化に対応しないといけないということに加え、何よりも、ほかの方がやっておられるのを見て、是非こういうことに取り組んでみたいというものができたら、新たに地域アクションプランに加わっていただきたいということも願いとして込めて、改訂していくつもりである。地域おこしでは、この地域アクションプランがメインエンジンになっていくと考えているが、新しいアイデアも、今年の秋から冬にかけての改訂のときに、是非盛り込んでいただきたいと思う。ただ、そのためにも、具体的に地域地域でどういうことをやっておられるかとい

うことを、特に、やってやろうじゃないかというやる気のある方にお伝えしていくということは非常に重要だと思うので、随時ご紹介していくような仕組みを考えてみたいと思う。いいご提案をいただいたと思う。

次に、地域のことを学ぶ場を教育の場でもっと設けるべきではないか、これは、私、最近よく言われている。来年「龍馬伝」が放映されるが、維新の歴史などについて今の子どもたちは全然知らないのではないか。また、地域地域にどのようなものがあって、どういうことをしているか。昔、私たちのときは、小学校4年生くらいで、副読本で地域について勉強したあと、見学に行くといった取り組みをしていたような気がする。最初にしっかり学んだ地理は高知市の地理だったような気がする。地域の歴史などを学ぶ場については、私はあちこちでご提言を受けていて、必要ではないかと思っている。実際のカリキュラムなどについては、教育委員会で考える必要があると思うので、話を投げかけてみたいと思う。

最後に、梅祭りは、私、去年も行かせていただいた。非常にすばらしい梅祭りであった。時間がどうなるか分からないが、また、お伺いさせていただきたいと思う。

#### 【農業振興の方向性、鳥獣対策、学力向上対策】

Gさん：土佐山のGといいます。就農してから今までの経緯を少しお話ししたいと思う。最初は県のレンタルハウス整備事業が中山間地域だけだったので、高知市から割と近い土佐山村を選んだ。ただ、就農した仲間たちと話したのは、就農有利地は営農不利地ということで、人がいなくて土地が余っているから就農させてくれるのである。平場でもしハウスが余ったとしても、条件のいいところは大規模化を目指している方がいて、その方が借りたりしてやられるので、新規就農して定着していくのは難しいと思っている。最初は、いわゆる経費モデルにより、家族4人で暮らせるということで、1反2畝のハウスで始めたが、その後、市況がどんどん下がって行って、何年かすると、(モデルケースが)2反5畝に増えていた。レンタルハウス制度が、平地にも下りて行って、大きなハウスが建ったことによって価格が下がっていったと感じている。普及センターに、「この地域でできるもの、狭いハウスで収益が上がる物がありますか」と聞いても、「何にもない。もうやめて、出稼ぎに行った方がいい」と言われる。また、市や園芸連などと話しても、「農家が作りたい物を作って売れる時代じゃない、売れる物を作ってくれ」と言われる。正しい面もあると思うが、私は、農家は売れる物よりは、作りたい物を作る、県の農業技術センターが品種改良、品種系統選抜をして、普及センターがみんなに下ろして、農家はそれを作って、販売は農協、園芸連がしてくれるというのが筋だと思う。市場で売れないときに、農家だけにツケが全部来てしまうというのは違うのではないか。同じ品質の物でも余っているときは、「こんなものはだめだ」と怒られて、ないときは半分腐ったようなものでも売れていくというのはおかしいと思う。高知新聞に、「どう稼ぎますか？」という連載がされているが、その中で、JA高知の中央会の方が、県職員、出先を使いたい、一緒にやったらいいと言っていた。私はそれは無理ではないかなと思っている。高知市農協の話だが、「高知市農協は保険金融で儲けていて、営農はそのおまけでしているのだから、分からないことは普及センターに聞け」と言われる。それを定期支所集会などでも言うので、農協が営農指導をますますしなくなる。また、中山間地域では土地が狭いので、高知県では少量多品種ということにどうしてもなると思うが、それで市場の占有率や系統率を高めて、値段を作っていくというのはあ

り得ないと思う。ミョウガのように市場での占有率や系統率が高くても値段が下がっている。大規模農地を持っている県、ましてや海外には絶対勝てないと思うのに、それを引っ張っていくという園芸連や農協の方向に限界がきているのではないかと考えている。それで、逆に、知事さんの言われる1.5次加工という方がまだ現実味があるのかなと考えている。

次に、農閑期にはイノシシ猟をやっている。中山間地域ではイノシシの害がすごく出ている。農家の高齢化も進んでいるが、猟師の高齢化も進んでいて、大先輩たちの技や知識が継承されないままなのはもったいないと思って、2年半前から始めて、習って山を回っている。土佐山にもシカが大分来るようになった。まだ農地までは来ていないが、山に入ると糞はたくさん見るし、去年は姿を見かけたという程度だったが、今年は罠で捕れるようになって、段々迫ってきている。県でも力を入れてやっていただいているのは分かるが、対策が後手に回っているのではないかと感じる。土佐山ではユズについても拡充しているが、それがシカに食べられてしまっただけでは終わりなので、是非その対策に力を入れていただきたい。

最後に、小中学校の話であるが、土佐山村から高知市の小学校になったことで、学校とすごく距離感を感じる。たくさんの中の一つの学校としか先生方にとらえられていないのかなと思う。県が学力テストで46位だったということだが、市町村間では、高知市は断トツのピリで、郡部がいいからまだ順位が支えられているという話を聞いた。先ほど知事さんから、高知市は家庭学習を2倍以上していないという話を聞いて、やっぱりそうなのかなと思った。対策については先ほどから熱く語られているが、すごく期待している。

知事：私も2人の子どもがいるが、本当に勉強を教えるのは大変である。まず、子どもがどこが分かっていないのかを解明することから始めないといけないし、1人1人に合わせて、子どもが5人いれば5人教え方があるくらい、非常にきめの細かい仕事だと思う。例えば、放課後に30分くらい補習のようなことをやると申し上げた。しかし、1人の先生でクラスの全員に放課後30分補習をするとしても、それではとてもではないが、教え切れないだろうと思う。幸い、新たに人を雇用するいろいろな財源というのもできつつあるので、そういうものも活用して、放課後の対応をしていく仕組みをつくっていきたいと思っている。先ほど、土佐の教育改革を10年やって変わらなかったということを申し上げたが、一つ、私は、大きく変わったことがあると思っている。土佐の教育改革を10年やって何が変わったかということ、学力向上の問題などについて、正面から取り上げられるような土壌ができてきたということは確かだと思う。私が知事に就任した直後に学力の話をする、嫌味なことを言われた。「お前はエリートだから、同じような有名大学への進学率をもっと上げようということを考えているんだろう、そんな学力はなくてもいい子はたくさんいる」とよく言われた。そんなことを言っているのではない。人生の基礎となる、いざ自分で何か学びたいと思いついたときに、自分で学習ができるようになるための、基礎の基礎、すなわち基礎学力をつけていくことが大切である。生きていくために最低限必要なものをしっかり身につけさせてあげないといけない。それが大人の役目ではないかと私は思う。まずは、問題の深刻さを正面からとらえることから始まるのだと思うので、それは率直に共有して、そこから先ほど申し上げたような本格的な対策を練っていくということだと思う。

次に、シカ対策であるが、お手元に資料を配っている。イノシシは肉が売れるので、比較的

捕っていただける。シカはなかなか売れないかもしれないが、狩猟期においてもシカを捕っていただかないととてもじゃないが間に合わないということで、報奨金をお支払いすることで狩猟期にもシカを捕っていただけるようにならないかということ考えた。メスを1頭捕ったら1万円、オスを1頭捕ったら5千円お支払いするという対策を取っている。よく皆さんに言われているのは、遠くから撃つのにメスとオスの区別なんてつかないということである。(会場笑い)また、両方1万円にしると言われたり、平均して7,500円に統一したらどうかというご提言も受けているが、オスがハーレムを作るので、メスを撃たないと意味がない。メスを重点的に捕っていただくインセンティブをどうつけるか、苦慮しているところである。とりあえず、今期の狩猟期が終わるまでの様子を見させていただいて、足りない部分については対策を強化するということをお考えさせていただきたいと思う。まだ工夫の余地があるのではないかとも思っている、試行錯誤を繰り返させていただきたいと思う。

農業については、確かに中山間特有の作物、そして、中山間特有の流通のあり方があると思う。そして、系統占有率を高めて、市場での価格支配力を高めていこうというやり方は、非常に重要なことだと思う。そうじゃないと、同じ産地の物が、出て行った先でお互い食い合っただけで値がどんどん下がっていく。系統率、占有率を高めて、一本でまとめた後の売り先ということについて言えば、市場に加えて、中食・外食産業などに売っていくということも組み合わせる必要があると思う。中食でブレイクしたものを、今度は市場で本格的に取り扱おうというような形で、お互いがお互いを太めていくような流通のあり方を目指していく、これが王道中の王道だと思う。ただ、中山間においての特有の難しさということについても、目を向けなければいけないと思っている。中山間地域で「こうち型集落営農」をさせていただいているが、このポイントは2つで、中山間に向いた作物、狭くて、高齢化が進んでいるようなところに向いた作物というものをできるだけ導入していきたい。端的に言って、グラム当たり単価の高い作物である。できるだけ手間が小さくて、現金収入がたくさん得られるような作物づくりである。もう一つは、機械の問題とか、経理の問題なども含めて、いろいろな作業の集約化をしていくことで、効率化を図って、コストダウンを図るとともに、省力化を図っていく。農家が作られた物をしっかりと受け止めて流通させていくことが本当の姿ではないかとおっしゃったが、売れる物を作るという発想もこれからの時代は必要だと思う。今、産地間の競争が激化しているので、それにも勝っていかないといけないと思う。しかし他方で、農家だけにツケが回ってくるのはおかしいではないかということはおっしゃるとおりだと思う。なので、作った物を集荷し、出していき、その先の流通ルートを一歩化して確保していくような仕組みとセットにした中山間での農業のあり方を今追及しているところである。「こうち型集落営農」と名づけて、モデルケースを増やそうとしているところであるが、その中で、より一般的な理論もできてくるかもしれないと思っている。いずれにしても、中山間で暮らしていける農業づくり、そもそも作物づくりから始めないといけない。薬草などについても大いに期待しているところであるし、シイタケや鶏もどうかと研究している。グラム当たり単価が高いものを1年の間で何作もしていくことで、全体として農家の所得が上がっていく仕組みが作れないか、これが今目指している姿である。そうすると、おっしゃったとおり、営農指導が是非とも必要になってくる。JAさんがおまけだとおっしゃったかどうかは私は分からないが、県の職員は、より営農指導を強化したいというつもりである。本当は営農指導員をもっと増やしたいが、財政再建に絡んで定

員事情がある。ただ、我々が中山間で目指そうと思っているのは先ほど申し上げたような形である。努力を続けていきたいと思う。当然それに加工も組み合わせていけばよりよいと思う。

【取引先の確保、農業経営指導、コーディネートする人材の配置、家庭学習の方法】

Hさん：言いたいことを一言で言うと、中山間で、自分たちが生活できる環境を整えてもらいたいということである。暮らすためには、道路の整備と産業の振興の2つが大きな課題となっていて、そこに教育、福祉、医療があり、環境が整って生活ができるのが基本だと考えている。今回、農業についてと、子どもの教育についてお話をさせてもらいたいと思う。

私は専業農家である。ユズに関して、ユズブームということで、全国的に作付面積も増えてきている。心配なのは、全国的に増えた場合、ユズの加工が全国的に余り始める可能性が非常に高いのではないかとということである。各産地は、大手や中小企業のユズの販売先をそれぞれ持っている。果たしてそれでどこまでどうなのかなという心配をしている。表年、裏年など、年によって差があるので、例えばメーカーが求める量が確保できなかった場合にどうなるか。県外の産地や新興産地に取られるのではないかと。県一本で絞っていただいて、今の自分たちの取引先の確保を、安定的に県としてサポートしていただければ、作る方としては本当に安心して作物を作れるという思いがある。

次に、農業経営について、私は、青色申告、白色申告、両方を申告しているが、自分を含めて、農家の経営自体をよく分かっていない農家が多い。今、青色申告をしませんかという経営指導をしていただいているが、その指導も進めていただきたいし、もっと踏み込んで、これくらい売上げがあって、そのお金がどこにいつているのか、そういった分析などをしていただければ、農家はスマートになって、経営しやすいのではないかなと思う。そういうところの改善策、経営分析などの指導をしていただければありがたい。

教育については、数字で見える学力もそうだが、目に見えない部分の学力も重要であると思う。私たちは、保護者でありながら、大人でもあるが、大人の教育力をどこで育てるのかということが非常に難しいのではないかと。 (合併前の)村のときは、公民館活動などが非常に充実していて、地域の社会教育の中で、子どもも親もともにいろいろ勉強しながら、一緒に育ってきたというところがあるが、合併してから、人間関係を含め、いろいろなところが希薄になって、地域の行事、伝統、文化をどうやって維持していこうか考えている。新市まちづくりのコミュニティ計画の中で、今後、土佐山をどうしようかと考えているが、そういった伝統、文化、行事等をトータルでコーディネートしてくれるような方が駐在していただければ非常にありがたい。地域をずっと維持していただいて、地域の中の各集落が元気になるような地域づくりをしていただいて、そういった中で、子どもも大人もその中でふれあいながら教育ができることがいいのではないかなと考える。

最後に、先ほどから言われている家庭学習の話だが、自分の子どもも勉強は好きな方ではない。保護者同士でも、家庭学習の仕方が分からないという話をした。そういう状況の中で、子どもが取り組みやすい家庭学習の仕方を、もっと全体的に示していくべきではないか。宿題の量も、学校によって全然違う。また、その学校で対応できる人員体制かどうかということも、それぞれ、時と場合、地域によって違うとも思う。もっと根本的なところから、家庭からいろいろな基本を変えていかないと、一足飛びにはなかなか難しいのではないかなと思う。

知事：家庭学習の話については、的確な宿題を出していくことがまずは基本の基本であると思う。

また、かなり量をこなさないと身につかないものもたくさんあると思う。私たちが小学生のときは、3ケタの掛け算とか割り算などのドリルを何度も何度もやらされた。最近はそのもあまりやらなくなったと聞く。とにかく、基礎的な問題を、数をこなしていくということが非常に大切だと思うが、そういう宿題がほとんど今まで出ていなかったということだと思う。全く出していないというところもたくさんあるやに聞いている。今度、宿題を出すこととなり、また、それに伴う定着状況いかんによっては、補習を強化するといった対応を取ることとなる。みんなに身につけてもらいたい学力がまずあって、それを超える部分については、家庭の親御さんがしっかり教えていくということであろうと思う。全部を学校でというわけにはいかない。相当の量、学校で一定程度基礎をつけさせて、そこから先の応用とか、もう一段踏み込んだ部分については、家庭でのそれぞれの教育方針になってくるのではないかと。今おっしゃった、何を勉強したらいいかわからないという話については、最初に勉強すべき良い教材を作って、それを宿題という形で子どもたちに勉強をさせるということであろう。当たり前のことのようであるが、それを徹底するというのではないだろうか。

伝統、文化などをトータルコーディネートするような者を駐在ということで、地域支援企画員が多くの場合は駐在して仕事をさせていただいている。こちらの地区には駐在させていただいていないということだが、担当の地域支援企画員がいるので、いろいろな機会に是非お声がけをしてやっていただければと思う。

農家の経営指導の話については、おっしゃるとおりだと思う。林家もそうであるが、経営指導については、強化していく方向である。申告の問題だけではなく、経営体としてのありようについて指導をすべしというお話、同じ問題意識を持たせていただいているので、強化する方向である。

ユズの話については、確かに全国的にもユズ加工に取り組み始めたりしているので、どう対応していくかということだと思うが、ユズのマーケットがいきなり飽和するということまではいっていないと思う。引き続き、ユズは基幹品目だと思うが、県全体としては、ユズとともに来る第2のスター、第3のスターをいかに育てていくかということも大きな課題だと思っている。今おっしゃった、確実に将来にわたってまで続く売り先の確保と言われるとなかなか難しい話であるが、先ほど地産外商ということを申し上げた。まとまって、できるだけ多様な販路を確保していくというお話を申し上げた。JAさんや園芸連さんなどの生産者団体ともタイアップしながら、販促を専担するような組織を設けるつもりである。財団として設けて、その組織において、アンテナショップやeコマースなど、全体的なツールを統括し、1次産品や加工品の売り込み、特に都会に対する販促などをバックアップしていく仕組みづくりをしようとしている。そういうことで、少なくとも、地産外商面における販売促進については、マル高の時代みたいに県の職員自身が商売はできないが、いろいろな形で、商談会などを含む場の確保や、セールスのときの最初のあっせんなどをしていくような体制をとっていきたいと思っている。これは、間違いなく、従来に比べたら大幅に強化する方向でやっている。体制を整えるのに時間が少しかかるかもしれないが、できるだけ早くと思って取り組んでいる。

### 【適正なりサイクル、肥料の地産地消】

Iさん：私は、県内外から出されている有機系の廃棄物を、菌を用いて発酵させ、肥料にして、リサイクルをするという事業に携わっている。2点申し上げたい。まだまだ使える有機系の廃棄物があるが、かなりの部分が焼却処分されている。それを、適正にリサイクルをしたらどうかかなということが1点と、もう1点は、今日お話のあった地産地消であるが、肥料について申し上げますと、県内産の肥料というものがほとんどないので、できれば肥料から地産地消を目指していただきたいということである。

最初の焼却の話だが、私どもで今取り扱っているのが、人間から出てくるものである。人糞、し尿、下水、食品加工業や小売店から食品加工の途中で出てくる農作物や加工品の残渣、小売店やスーパーなどから出る生ゴミ、売れ残り品などのロスを引き受けて肥料を作っている。他にも、おからやユズの搾りかす、養殖で途中で死んでしまった魚も受け入れている。実際、仕事を始めて調べてみると、そういったものがほとんど焼却処分されていた。公共の焼却炉で重油を焚いて処分されていたということになる。今後、食品加工の分野などで対策を取られるというお話だった。その過程で、絶対残渣が出てくる。できれば人間が食べられるものになればいいし、それができなければ、動物、家畜のエサや飼料に使っていただければいいと思う。それにも使えないものは肥料として、そういった廃棄物の処理も、計画の中に入れていただければと思っている。県外の食品加工業者さんとお付き合いがあるが、県外の方が意識が高く、リサイクルを前面に打ち出さないと流通しない、あるいは、企業としてのイメージも低くなるということで、早くから取り組まれている企業さんが多い。そういったことが、環境を守ることにもつながるし、資源を循環させていくという意味でも、付加価値を高めることになると思う。是非、お願いしたいと思う。

次に、肥料の地産地消ということで、いろいろな農家さんを回ったが、県内で作られている肥料はほとんどなかった。有機農家さんで、早くからJASなどに取り組み始めたところなどは、地元でたい肥を作られているが、多くの農家さんは、化成肥料、化学肥料に頼っている。化学肥料は、ほとんどが県外で作られて、販売だけ高知でされているというケースが多い。非常にもったいないなと思っている。県内で使える有機物があるのに、それを一方で燃やしておいて、逆に肥料は県外から買ってきて生産している。是非、県内の有機物を利用して、肥料も地産地消を進めていただければと考えている。また、それによって、食品の製造業さん、小売店さん、農家さん、各産業を下支えするようなことになっていくのではないかなと思う。

知事：それぞれのコストはどうなっていますか。

Iさん：焼却と比べると、たい肥化が安い。実際、半分以上、民間企業さんと契約をさせていただいている。行政面でも、し尿、下水があるが、これについても、焼却すると明らかにコストが高い。ただ、焼却炉に補助金が半分や3分の2入っている関係があって、実際のランニングコストだけで比較すると、焼却の方が安いということもある。

次に、化成肥料と比べると、同等の成分であれば私どもの方が安い。

知事：食品加工について、今後、専属の課も設けて、推進していこうと思っている。今おっしゃ

った、加工の過程で出てくる残渣の問題、さらに、燃油、資材、肥料の3つの高騰に、農家の皆さんが苦しめられているので、肥料について、何かうまい対策が打てないものかということがある。今すぐに絵が描けるわけではないが、担当部にその話を投げかけてみて、今後の戦略をどう考えていくか検討してみたいと思う。

(会場の方からのご意見等)

【分収林計画、県道南国伊野線の改良】

Jさん：鏡の今井地区のJです。今日は貴重な時間なので、地区を代表して2点お願いをしたい。

今井地区には、今井共有林という山があって、今から46、47年前だと思うが、溝渕知事さんの時代に分収林計画として健康造林を行っていて、それが60年契約であった。ところが、昨年、20年延長していただきたいと県から要請があった。地区民に聞いたところ、「今の木材の情勢、また県の情勢であれば協力しよう」ということになって、再延長の20年の契約をしている。私どもの年代の者は、60年契約であれば伐採も可能で、木も売れるのを楽しみにしていたが、20年後には、もう既に我々の目も黒いような状態ではない。非常に残念だが、この見返りとして、今井区民に何かの恩恵があるような、健康造林にも限度をつけていただくといった地区民も安心できるような計画をお願いしたいと思う。

もう1点、今井地区から土佐山方面に抜けている県道南国伊野線について、この道路は数年前までずっと改良工事をやっておられた。しかし、ここ数年、どういう事情かよく分からないが、工事がストップされている。特に、影谷地区に道が非常に悪いところがあって、大型バスも通れない。なので、土佐山の方へ行こうとしても、旧高知市の方へ回らなくてはならないような箇所がある。この箇所の土地も一部は買い上げされているようなので、是非、梅祭りに来られるときには通って、悪いところを見ていただいて、尽力していただきたい。

知事：道の話について、今すぐお答えはできないが、調べて、また認識をさせていただきたいと思う。南国伊野線は私も通ったことがある。道が悪くて、確かに大変なところだとは思う。公共事業はこれまでどんどん減らしてきていて、去年がフラットくらい、今年は少し増えることになると思う。しかし、今までずっと減ってきたものが急に元に戻るということはない。県内のあちこちから同じようなことを言われていて、全部への対応は今の段階ではできないが、優先順位をつけながら着実にやらせていただく。

【酒米の製造による地域活性化、高知市へのアンテナショップ、あったかふれあいセンター】

Kさん：私は俗に言われる限界集落に居住している。私たちの時代は、地元の方が100人くらいいたが、今は30名くらいになっていて、そして、私たちがいなくなると、つぶれてなくなってしまうようなところである。この間、新聞を見たところ、旭食品さんが、鏡川は清流だということで、鏡地区や土佐山地区で、酒米の製造をして、地域活性化をということが載っていた。是非うまくまとめていただけるような施策はないかと思う。

次に、昨日高知市の懇談会にも参加させていただいたが、その中で、高知駅から帯屋町、はりまや橋にかけて、地域を再生するための地域づくりという意見を出され、その中にアンテナショップをつくりたい、地域の物産を集めて全国から人に来てもらおうと言っていた。知事も



大変それはいい考えだと言ってくれていたのですが、是非それは進めていただきたいと思っている。

最後に、あったかふれあいセンターを 10 か所ということだったが、10 か所の根拠を教えてください。これができれば、本当に教育にもつながっていくのではないかと。子どもたち、障害者、高齢者が一緒に集っているところで、いろいろな勉強ができ、介護の面でも、子どもたちが高齢者を見るということが進むのではないかと。今までだったら、家庭の中でこれが一つにまとまる場所であったが、地域崩壊で分断されてしまっているので、是非これは進めていただきたい。

知事：10 か所の根拠について、本当はもっと数が少なかったが、もっとやりたいと思ったので 10 か所になることになった。予算の限界もあるし、これは新しい取り組みなので、作りこんでいく職員のマンパワーの限界もある。中山間地域でのニーズを考えると、10 か所で相当程度できるのではないかと。もっとニーズが出てくるようであれば、場合によっては、途中で補正予算で追加などということも考えられるので、まずはこれくらいということである。

アンテナショップの話については、産業振興計画の中間取りまとめの資料の 2 枚目の右上に「地域から高知市への販路開拓」とあって、「高知市へのアンテナショップや産直ショップの設置支援」と書かせていただいている。高知市の購買力と、中山間の生産地の皆さんとを結び付けていくことを是非ともやっていきたいと思っている。高知市は人口 35 万人で、非常に広大な市場である。市としてはかなり大きいし、中心市街地の規模としてもかなり大きい市であると思う。この消費力を中山間の生産地に役立てる。まず、そのための刺激として、アンテナショップをつくっていく。それで、もっと土佐山、鏡のものを買おうじゃないかという話になって、次は市場経由でどんどん流れていくようになるということを期待している。場所について、高知駅から帯屋町までの間にずっとというお話もあったが、私はどちらかというと、中心商店街の中の方がよいのかもしれないと思っている。そうすることで、いわばトル高知みたいなものがあれば、中心商店街の魅力もアップし、観光客の皆様にも受けるのではないかと。アンテナショップを高知市に設けても、行きには物を積んでいるが、帰りは空になっていて、商売的にコストが大変であるという話を伺っているので、最初の段階では、例えば家賃の補助といった形で、バックアップさせていただくことも重要になってくると思う。そのうちに、高知市からの帰りにも物が動くようになれば、うまく採算が合うようになって、続いていくものになると思う。

1 点目の酒米の話については、個々の業者さんのご努力の話なので、私どもではできないと思うが、旭食品さんは、先日、土佐山の方で協働の森事業の協定を結ばれたということで、非常にこちらを大切にしておられるので、是非成功されることを期待している。

#### 【竹害への対応】

L さん：私は、山の問題についてである。藩政時代から大事にされている土佐の山が今危機に瀕している。というのは、広葉樹も針葉樹も、どんどん竹に食われている。これは私たち集落の大きな問題になっていて、集落で竹林を伐採し駆除するために中山間事業を使って対応しているが、負担が大きい。竹は、ここ 30 年余りで何倍もの面積になっている。そのまま放置したら、さらに今の何倍もの竹林ができる。針葉樹も広葉樹もどんどん食われて竹林になってしまうと、

それが災害、山津波の原因となる。放置したまま南海地震が来ると、鏡川水系だけで考えても、鏡、土佐山の山が崩壊し始めて、何年、何10年という間、(川を土砂で)つぶすことになる。そうすると、我々の集落はもちろん、35万都市の高知市中心部が大きな被害を被ると思う。今、50年先の将来を考えた行政をやってもらいたい。高知県は、県土の84%が山であるので、竹林化を防ぐ対策をお願いしたい。

知事：確かにおっしゃるとおり、竹害は山津波を起こすということを伺ったことがあるので、県と市で連携をして、真剣に対応ができるように努力をしたいと思う。地域支援企画員がお伺いして、状況を伺って、対応ができるように話を進めていきたいと思う。

**高知市企画調整課長：県の補助を高知市が受けて、予算の増額もさせていただいているので、市の森林政策課にご相談いただければと思う。**

#### 【教育改革の推進】

Mさん：先ほど知事さんが、なぜ鏡でこれほど教育のことが語られるかとおっしゃったが、鏡村は、高知市の北の具足と言われた時代がずっとあった。昭和の初期もたくさんの人材が出ている。平成一ケタくらいまではとても素晴らしい教育をしていて、全国でも指折りの学校だった。ところが、今は学校が組織として動く力がない。個々にはいい先生がたくさんいるが、それを学校として束ねて、小学校だったら6年のスパンで教育をするということがないために、1年の担任の先生がいくら頑張っても、2年生の時点で切れてしまえば、もうなしと同じである。今、そういう教育をしているので、先ほどEさんが言われたことも非常に胸に痛く聞こえてきた。知事さんは、教育に対する口出しはできないが、非常に教育に対して関心を持たれているということが大変うれしく思っているので、昔の鏡、土佐山のように、高い教育力を持てるようになるように今後ともよろしくをお願いしたいと思う。

知事：個々のカリキュラムや人事についてはできないが、予算編成などを通じて、大きな制度をつくっていくとか、具体的な仕組みづくりをしていくということは私もできるわけで、それを通じて、できる限り最大限でやろうとしている。

#### (知事のまとめ)

今日はいろいろ本当にいいお話を伺った。特に教育の話については、全部で6人の方にお話を伺った。これくらい率直に教育についてお伺いし、また、私自身も申し上げたことはなかったと思う。この教育の問題は、本当に今、深刻さの度合いが増している話で、真剣に取り組んでいかないといけない話だと思っているので、真剣なことをやろうとしている人間もいるのだということを是非信じていただきたいと思う。一生懸命頑張っただけでやっていきたいと思う。また、中山間地域での地域づくり、まちおこし、農業の問題、中山間特有の複雑な課題があるということも勉強させていただいた。今日いただいたお話は、プライバシーを侵さない範囲内で記録に残させていただいて、関係部署で共有し、今後の政策運営に活かさせていただきたいと思う。

本日は長時間にわたってお話をさせていただき、本当にありがとうございました。